

# みんなの図書館

発行日 令和3年7月21日(水) (年4回発行)

第63号



発行者 木更津市立図書館

木更津市文京2-6-51

TEL 0438-22-3190

FAX 0438-22-7509

## 休館日が変わります

図書館は8月から、毎週月曜日が休館になります。

開館時間も一部変更しますので、ご来館の際にはホームページや広報きさらづ、図書館で配布している「図書館カレンダー」で開館情報を確認してからおでかけください。

### 8月以降の休館日

- \*毎週月曜日(祝日の場合は、次の祝日ではない日)
- \*毎月最終金曜日(祝日の場合は、前の祝日ではない日)
- \*年末年始、蔵書点検期間

### 8月以降の開館時間

- \*火曜日～金曜日・・・・・・午前9時～午後7時
- \*土曜日・日曜日・祝日・・・・午前9時～午後5時



一般的に、図書館や博物館などの文化・教育施設は、月曜日に休館するところが多く、その理由は土日にも多くの来館者があり、月曜日は比較的に利用が落ち着くからだそうです。

木更津市立図書館の定期休館日がなぜ火曜日だったのか、調査をしても明確な理由はわかりませんでしたが、昭和4年の開館時は、小学校に併設していたため、小学校教諭が放課後と日曜祭日を返上し、休みなしで開館していたようです。また、昭和6年の開館日数はなんと319日！年間46日しか休館していなかったようです。(参考：平成30年度の開館日数は283日)

そのあと確認できる開館情報は、昭和45年まで見当たらず、昭和45年にはすでに火曜日休館でした。【参考文献：『木更津市立図書館四十年史』】

ちなみに、毎月最終金曜日は、図書システムの更新や館内設備の点検を行っています。

# 今年の図書館、こんな予定です

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、さまざまなイベントが中止となりました。今年度は対策を練ったうえで、できる限りイベントを開催していく予定です。

★印がついているイベントの詳細は、決定次第ホームページや館内にポスターを掲示してお知らせします。



## おはなし会

毎週木曜日 3時30分から（3歳から5歳まで）・3時50分から（小学生）

会場：2階会議室

昔ばなしなどのおはなしと絵本の読み聞かせをします。

3時30分からのおはなし会には、保護者同伴での参加をお願いします。

## 赤ちゃんといっしょのおはなし会

第1・3・5木曜日 10時30分から・11時から

会場：2階会議室

簡単なわらべうたや手遊び、赤ちゃん絵本の読み聞かせをします。



## ブックスタート

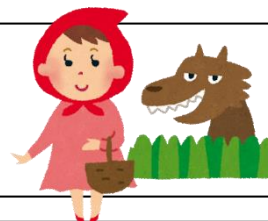
木更津市で生まれた生後6か月の赤ちゃんと保護者を対象に、絵本を開く体験と絵本をプレゼントします。

対象者には個別にはがきで案内をします。

## 大人のためのおはなし会★

大人を対象にしたおはなし会です。

年に2回の開催を予定しています。



## 児童文学講座★

9月の開催を予定しています。

昨年度開催を延期したこぐま社の編集者である関谷裕子さんを講師に招き、「こぐまちゃんとともに50年」をテーマにお話を伺います。

## 絵本講座★

10月の開催を予定しています。

乳幼児におすすめの絵本や、家庭でできるわらべうたなどを紹介します。

## ボランティア講座★

きさらづ点訳の会のみなさんから、点訳の基本を学びます。

10月の開催を予定しています。



**夏休み企画 図書館を楽しもうよ！** 詳しいことはホームページや館内ポスターで確認を！

**① 俳句の短冊を作ってみよう**

俳句に関する本の調べ方を書いた手引き「パスファインダー」と、俳句を書く短冊を配布し、作品を募集します。

提出された短冊は9月から図書館に掲示します。

**② 半日図書館員体験（募集は終了しました）**

図書館の裏側の仕事を体験します。

対象者は市内の小中学校に通う小学校5年生から中学校3年生までです。

**③ こわ〜いおはなし会**

ちょっとかわいおはなしと絵本や紙芝居を読みます。



**雑誌と図書のリサイクルフェア★**

10月と11月の開催を予定しています。

図書館で保存期限の切れた雑誌や除籍図書を市民へ無償配布します。

**れきおんミニコンサート★**

国立国会図書館が保存・配信する100年前頃のレコードなどから、歴史的音源をコンサート風に紹介するイベントです。

6月26日に「音楽でめぐる世界旅行」とのテーマで開催し、定員ぴったり30名の参加があり「コロナ禍で実際の旅行には行けませんが、世界を旅した気分だった」と好評でした。

次回は11月頃の開催を予定しています。



**ブックスタートボランティア養成講座（今年度の募集は終了しました）**

ブックスタートのこと、絵本のこと、赤ちゃんのことを学び、ブックスタートボランティアとして活動してもらいます。

30名の申し込みがあり、7月7日に初回を終えました。

「みんなの図書館」59号の編集後記にも書きましたが、図書館にはやはり利用者のみなさんの姿があってこそ、図書館として存在するということを改めて実感しました。

おはなし会に笑顔で参加してくれるお子さん、れきおんミニコンサートで懐かしい歌声を楽しんでくださる人、ブックスタートボランティア講座に参加し新しい挑戦をしたいと思う人、図書館に来館するたくさんの人を応援できる場所でありたいと思います。

今号のレファレンス・トリビアは、今年度から「みんなの図書館」編集担当になった【まー】が執筆しました。初原稿ということもあり、気合たっぷり特別増量バージョンでお届けします。

## 《レファレンス・トリビア》

### 質問

『ゴジラシンギュラポイント』というアニメを見ていたら、「アラジンの魔法のランプのアラジンは、中国生まれ」「魔法のランプの話は、フランス語版からアラビア語の原本が作られた」と言っていました。本当ですか？

### 調査回答

ディズニーのイメージが強いあの作品ですが、さらに質問では、「魔法のランプはあらゆる願いをかなえてくれるが、ひとつだけ願っちゃいけないことがある」と続いたそうです。

「ランプの魔人を呼び出したらみつつ願いをかなえてもらえる／ランプの魔人は持ち主に絶対服従」という話だと思っていたのですが、どうも、それとも違っているようです。

そんなわけで、「魔法のランプ」のお話について、調べてみることにしました。

でも、その前にもうちょっと、考えてみましょう。

「魔法のランプ」は、『アラビアン・ナイト』またの名を『千夜一夜物語』というお話の中のひとつなのですが、「魔法のランプ」だけを調べればよいのか、『アラビアン・ナイト』全体で調べるべきなのか、わかりません。さらに今回は、インターネットを使うと、ディズニーの最新情報ばかりが出てくるような気がします。とすると、ここはネットよりも、「その本が発行された時までの情報がきっちりと書いてある」百科事典で調べてみるのがよさそうです。

まずは『総合百科事典 ポプラディア新訂版』（全国の小・中・高等学校で、最も信頼されていることも百科事典です）で、「アラジンとまほうのランプ」を調べてみましょう。

「アラビア語で書かれた説話（まあそうですね）…中国の貧しい少年アラジン（中国って書いてある!）」でも、「フランス人の東洋学者ガランがアラビア語からフランス語に翻訳し、『アラビアン・ナイト』に加えた」とも書いてあります。「加えた」というのがどういう意味なのか、よくわかりませんが、この本が出た 2011 年の時点では、この書き方であっていたのかもしれませんが。

そこで同じ第 1 巻で、「アリババとよんじゅうにんのとうぞく」を調べてみると……。

「アラビア語の原典は長年みつからず、20 世紀はじめにアラビア語写本が確認されたが、ガランが翻訳したものと同じかどうかははっきりしない」（なんですとー?!）



質問が、脚本上の都合などで、この部分については創作していないとすれば、「魔法のランプの話は、フランス語版よりも古いアラビア語写本は存在しない」はずです。そのため、この辺りの記述がどう書いてあるかは、大変重要な問題です。魔法のランプのところに直接書いてあるわけではないのが残念ですが、ひょっとしたらこのあたりも、いろいろと混じっているのかもしれませんが。

ちなみに、『ポプラディア』は2021年10月に新しい版が刊行される予定なので、今後このあたりが、どのように書き方が変わってくるのか、調べてみるのも面白そうです。しかしその前に、今度は大人向けの百科事典で、『アラビアン・ナイト』についても調べてみることにしましょう。

調べてみるのは『世界大百科事典』です。第31巻は、まるまる一冊、索引となっていて、『アラビアン・ナイト』が関係している項目が、他の30冊の中からすべて、検索できるようになっています。もちろん、いきなり『アラビアン・ナイト』を探すのもありますが、索引からひくことで、思いもよらなかった方向から調べることができるわけです。

そこで、索引から調べてみますと……。

「『アラビアン・ナイト』 12-721 左（ジャータカ） 16-195 中（千夜一夜物語） 22-667 左（バートン）」と示してあります。

「ジャータカ」とはなんなのか、わかりません。この書き方は、12巻の721ページ、左の欄に出てくるという意味なので、12巻を開いてみましょう。「インドの民話に題材を求めた、釈迦の過去世物語…インド各地の昔話や寓話…のちにシリア語やアラビア語に訳されて…『イソップ物語』や『アラビアン・ナイト』に影響…」（インド?! インドの話も混じってるのか! へー!）

こうなると、もうひとつ有名な、あのお話が気になるところです。もう一度『ポプラディア』に戻って、「シンドバッドの冒険」を調べてみましょう。

「アラブの口伝えによる民話…いまは大金持ちの商人になったシンドバッド…もとはインドの物語であった」（インドだ!）

どうやら、シンドバッドはインド生まれだったということがわかりました。やった!



……いやいやいや、違います。つきとめたかったのは、「アラジンが中国生まれなのかどうか」であって、シンドバッドのことではありません。

しかし、ひとつの言葉を追いかけていくと、つい他の言葉に興味がいってしまうのが、百科事典を使った調べものの面白いところです。時間のある時に、何種類かの百科事典を並べて索引から調べてみると、ある意味、ネットサーフィンと同じ体験ができるかもしれません。

それにしても、現代ではあらゆる意味でいろいろと変化している『アラビアン・ナイト』は、少し調べてみただけでも、「昔からいろいろな国のいろいろな話がまじっていた（らしい）」ということがわかりました。ある程度、まとまった回答を出さなくてはいけない「レファレンス」という作業とし

ては、大変中途半端ですが、相手がランプの魔人のお話であるだけに、どうやら「煙にまかれてしまった」ということのようにです。

## わたしの思い出の1冊 ～記憶の中に深く刻まれている1冊をご紹介します～

「アルジャーノンに花束を」 ダニエル・キイス//著 (G/キ) 図書館員 めっち

言わずと知れた作品なので、ここではあらすじの説明を割愛します。

初めて読んだのは高校生の頃だったと思います。駅前にあった当時の木更津そごうの本屋さんで購入したことは覚えています。なぜこの本を手にとったのか、はっきりとは覚えていません。大人の本への憧れ、ピンク色に美しい花束の表紙、外国小説ということに惹かれたのでしょうか。

最近再読し、あの頃とは比べ物にならないくらいに感情を揺さぶられました。結末がわかっている、後半はページをめくるたびに涙がこぼれ、やはり最後の一文で号泣です。

なにが幸せなのか、大人になった今だからこそ考えてしまいました。そしてこの小説は、何といっても小尾芙佐さんの訳文が秀逸だということを再認識しました。ドラマ化もされましたが、個人的には読むほうが深く作品を感じることができると思います。

とても切ない話ですが、出会えてよかったなと思える1冊です。

図書館を使いこなそう  
NO.35

### 一般開架、児童開架、二階書庫？ 旧郷?? 児童引き出し??

図書館の書架は【開架書架】と呼ばれる、利用者が自由に図書を手に取れる書架と、【閉架書架】と呼ばれる、いわゆる書庫と大きく分けられます。

蔵書検索を行うと【現在館】が、一般開架、児童開架、一階書庫など表示され、探している図書がある場所を示します。書庫は一階書庫、二階書庫、旧郷と3カ所あり、出納は職員が行います。どの書庫でも1階のカウンターで対応していますので、お気軽にお尋ねください。

他には、【現在館】が児童引き出しという場所もあります。これは児童室の書架の下にある引き出しで、季節が限られる児童書（夏休みの工作や自由研究・クリスマスなど）を収納しています。季節になると特設コーナーを設け、時期にあった図書の提供を心がけています。



ところで、謎の言葉【旧郷】ですが、【旧郷土資料室】の略からこう呼び、現在は第3の書庫として雑誌を中心に保管しています。

図書館は平成3年に一部増築を行い、現在の郷土資料室は2階の増築部分に設置してあります。それまで郷土資料室として使用していた部屋があき、保管室となったため、通称的に【旧郷】と呼び始めたものが現在も続いているのです。

**編集後記** 掃除機で有名なD社のドライヤーを購入しました。このドライヤーめちゃくちゃ乾きが早い！そして髪にツヤがでます。夏のドライヤータイムは暑くて憂鬱でしたが、最近は楽しんでいます♪（めっち）はじめて図書館だよりに書かせていただきました。そして盛大に文字制限オーバー……さっそく編集長めっちゃんにご迷惑をおかけしております。次回はちゃんと締切その他をお守りします…（自信なし）（まー）